

# 「学校全体で取り組む教育の情報化」に向けた

## 研修担当教員と ICT 支援員の役割と一考察

湊川祐也（松阪市立三雲中学校）・加藤彩葉（イー・ダブリュ・エス株式会社）・藪晃明（松阪市立三雲中学校）

概要：本校では 2011 年度より生徒 1 人 1 台のタブレット端末を活用し、学校全体で教育の情報化に向けて取り組んでいる。今日まで、教員の授業づくりや生徒の学習活動における ICT 機器の利活用について、研修担当教員と ICT 支援員が連携を取りながら、機器環境の構築、改善や教員研修等を行ってきた。その中で、それぞれの役割が共有され、協働することで機能し、学校全体の取り組みが促進されている。そこで本発表は、これまでの実践から、教育の情報化につながる研修担当教員と ICT 支援員の役割について事例をあげ、考察する。

キーワード：教育の情報化，ICT 支援員，研修部，連携，ICT 機器の利活用

### 1 はじめに

松阪市は 2011 年度より、本校から教育の情報化の取組を先駆的に進め、現在、中学校 3 校で 1 人 1 台のタブレットを活用した実践を進めている。また、実践を円滑に進めるために、ICT 支援員（以下「支援員」という）が機器の保守管理に加え、教員への授業支援など様々な支援を行っている。一方で、これまで日常的に支援員が取組に関わってきたからこそ見えてきた成果と課題がある。

そこで、これまでの取組から支援員の役割について、本校での経験年数が 4～6 年の教員を「A 群」、1～3 年の教員を「B 群」として、教員への Web アンケートによる質問紙調査、自由記述の結果から、「これまで支援員が行ってきた支援内容で、教員ができる内容、支援員だからこそできる内容は何か」、「(校内で教育の情報化を率先して行う)研修担当教員の役割との違いは何か」など、支援の役割についてまとめる。

### 2 研究の概要

#### (1) 目的

A 群・B 群で支援内容を比較し、支援内容の整理と共に、研修担当教員と支援員の役割について

考察する。

#### (2) 調査時期と調査対象

平成 29 年 7 月、本校の教員

#### (3) 調査方法

Web による質問紙調査と自由記述

#### (4) 質問項目

1-1 支援内容について

1-2 支援内容の変容について

1-3 ICT 機器を活用するために、機器整備の他に必要なことについて

### 3 結果

#### 1-1 支援内容について

A 群、B 群ともに効果を感じている支援内容は以下の通りである。

- ・機器のハード・ソフトの調整や整備
- ・機器のハード・ソフトの使用法
- ・機器の不具合への早期対応
- ・機器を利活用した授業づくりの相談

#### 1-2 支援内容の変容について

具体的な支援内容・変容については以下の通りである。

A 群（経験年数が 4～6 年の教員）

- ・ソフト・ハードの調整や整備方法について聞

くようになった

- ・はじめは機器操作の方法について聞くことが多かったが、最近では授業づくりのアイデアをもらうことが増えた
- ・機器操作の支援から、授業デザインの中での活用の支援に変わった

B群（経験年数が1～3年の教員）

- ・タブレットやアプリの基本操作
- ・アプリのインストール

1-3 ICT機器を活用するために、機器整備の他に必要なことについて

A群、B群ともに以下の内容を挙げている。

- ・効果やねらい等の教員の目的意識
- ・モチベーションの維持できる環境
- ・機器の使い方や効果的な使い方等の支援
- ・授業規律、情報モラル
- ・活用事例の共有

## 4 考察

1-1の考察

教員は、機器のハード・ソフトの各種サポート体制が充実していることや、早期対応できる環境を必要としていると考えられる。

1-2の考察

初期段階においては、機器の基本的な操作方法や、Wi-Fiに接続されない等のトラブル対応といった支援、経験年数が長くなるにつれて、具体的な授業での活用場面についての相談といった支援へと変化してきたと考えられる。

1-3の考察

結果を分類すると以下のようにまとめることができる。

- ①目的…授業づくりに関すること  
→教員が中心となって考えること
- ②使い方…機器に関すること  
→支援員が中心に考えること

## 5 結論

本校での経験年数によって、差が出たのは支援員に求める支援内容の変容であった。一方で、機器を活用するために必要なことについては差が

出なかった。これは経験年数に関係なく、これまでの授業づくりの視点で考えていることがわかった。

また、研修担当教員は授業づくりの視点から教員に目的を意識させること、支援員は機器の使い方からの視点から支援を進めることが効果的である。支援員の役割と研修担当教員の役割をまとめると図1のようになる。

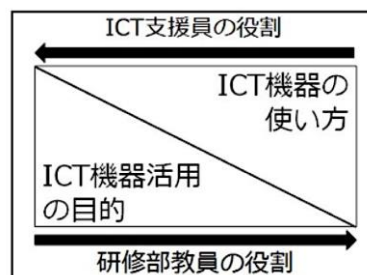


図1 役割の分担

支援員と研修担当教員が連携して、学校組織がスパイラルアップできるように意図的に手立てを講じていくこと、そして学校組織が推進していくシステムが存在しているかが重要である。

## 6 今後の課題

本市においても各校で機器が整備され、教育の情報化が進むと、支援のニーズは増えてくる。しかし、限られた予算の中で支援員の雇用数を増加させることは難しい現状もある。

本実践から見えてきたように、教員は支援員が行う支援についてどれも効果を感じているが、それらを分類すると授業づくりの視点からの支援と機器操作の視点からの支援があること、実践の年数によって支援内容が変容することがあきらかになった。整備導入後は支援員による支援は細やかに行う方が効果は高いが、年数を踏まれば、特に授業づくりの視点に関わる支援内容については研修担当教員と連携しながら校内研修や学習会などで補える内容もあることも分かった。

今後も支援員と教員の役割についてより効果を得られる方法について考えていきたい。

## 参考文献

長谷川 元洋, 三雲中学校 無駄なくできる学校のICT活用 学事出版 2016